

1.適用規則については、2023年公認野球規則及び本大会規則を併用する。

2.試合はトーナメント方式6イニング制とする。

3.登録選手は9名以上20名以下とする。

※2023年9月30日まで登録選手の変更は認める。

※2023年9月30日までに登録選手を変更するにあたり翌日試合の場合は前日までに事務局までに更新した登録選手用の用紙をメールにて提出すること。間に合わない場合は試合当日登録選手用紙を持参して事務局に提出をすること。自主開催の場合は相手チームに渡すこと。

4.試合当日の選手の最低人数は9人とする。

5.試合開始後1時間30分を過ぎて新しいイニングには入らない。

但し、1時間30分を経過したときリードしているチームが裏の攻撃中の場合は、次の回を最終回とする。
(決勝戦を除く)

6.3回終了10点差、5回終了7点差にてコールドゲームとする。(決勝戦を除く)

7.同点の場合の扱いは、特別延長ルール(別途定める)もしくは抽選とする。(決勝戦を除く)

・※特別延長ルール

1 死満塁・継続打順・一塁走者は前回の最終打者・二塁、三塁走者は順次、前の打者とし、最大2イニングを戦う。勝敗が決しない場合は抽選とする。

規則により認められる選手交代は許されるが、代打・代走は正規の選手が一旦所定の位置に着いてから交代する。

・※抽選

試合終了時に守備についていた選手9人で行う。

8.ダッグアウトは組み合わせ番号の若いチームが一塁側とする。

9.グラウンドルールは各会場の指定するルールに従う。

10.相手チームや審判員へのヤジは禁止とする。

※自チームへの声掛けを否定するものではありません。マナーアップを目的として試合要項に記載しております。

試合をしている選手の子供たち、相手チームに対しても試合をして良かったと思えるような対応願います。

- ・攻撃側のチームが守備側のチームに対して、投球時にボークを誘発するような声かけ。

例)「走った!」、「逃げた!」

- ・守備機会の時に失策を助長するような声かけ。

例)「やるぞ」、「落とせ」という声かけ。

- ・攻撃側のチームが投球後に審判の判定をまたず「ボール」といつたりすること。

11.大会規約に違反した行為が発覚した場合は審判員及び事務局の判断で失格とする場合もある。

12.試合会場のダッグアウトに入れば人数は不問とする。但し、グラウンドイン出来るのはユニホームを着た

監督、コーチ及び選手とする。

※背番号の有無は不問とする。

※選手の為のサポート父母はダッグアウトに入る事が出来る。

※コーチが当日不在である等でユニフォームを着用していない、チームのコーチ・スタッフ等の方がグラウンドインする場合は当日、事務局にお声かけください。

13.危険防止の為の用具は必ず使用する。

- ・シートノック時の補助選手、試合時のグラウンド内にいる攻撃側の選手(ベースコーチ含む)ならびに両チームのボールパーソンは打撃用ヘルメット、守備側の捕手は防護用ヘルメットを着用、且つ投手の投球受ける際はマスク着用すること。

※シートノック時のコーチのヘルメット着用については安心、安全のため極力着用下さい。

- ・男女とも捕手はファウルカップを着用すること。
- ・インング間の投球練習については監督、およびコーチが受けることは可能とする。

14.インング間の投球練習について

- ・原則選手間で行うものとする。
- ・サブキャッチャーが居ない、受けれる選手がいなかったやむを得ない場合においては監督、コーチが受けることを可能とする

※キャッチャーズマスクの着用については任意（自己の判断に任せる）とする。

15.本大会はバントを禁止とする。

- ・投球時バントの構えを行った場合ボールデッドとし、ストライクをカウントする。
走者は投球時の塁に戻る。

16.ベースコーチは選手が行うこと。（監督、コーチによるベースコーチを認めない）

17.1日における試合の投球数は70球以内とする。（4年生以下は60球以内）

- 但し、打者と対戦途中で制限投球数に達したときはその打席が完了するか、
打席中に攻守交代になるまで続投できる。

18.申告敬遠の適用はしない。

19.本大会はリエントリー（再出場）する事が出来る。

1人でも多くの選手に出場する機会を増やすことを目的とします。

- ・スターティングプレイヤーはいったん試合から退いても、一度に限り再出場する事が出来る。
- ・再出場する場合には、自己の元の打順を引き継いだプレイヤーと交代しなければならない。
この場合、守備位置は変更しても構わない。

・EDHスターティングプレイヤーの選手もリエントリーに含まれる。

※投手の障害リスクを高めるような再登板を推奨しない。

※複数の交代選手が使われる場合でも、交代した先発選手の打順を変更することのないよう注意する。

【リエントリーに関する違反】

以下の場合には違反となる

- ・先発メンバー以外の選手が再出場した時
- ・再出場選手が元の打順以外の打順で出場した時
- ・再出場した選手が退いた後、3度目の出場をした時

【リエントリーに関する違反が判明した場合の措置】

リエントリーに関する違反は、相手チームから審判にアピールがあった時に以下の措置を取る。

違反者は正しい交代者と交代する。

- ・守備側の選手に違反が判明した時

① 次の投球動作に入る前は、攻撃側の監督にプレイの結果を生かすか、
(打撃完了前のボールカウントで) 打ち直しをするかの選択権が与えられる。

② 次の投球動作に入った後は、すべて有効となる。

・攻撃側の選手に違反が判明した時

① 打撃完了前に判明した時は、正しい交代者がそのカウントを引き継ぐ(それまでのカウントは有効である)。

② 打撃完了後、次の投球動作に入る前は打撃による全てのプレイは無効で、
違反者はアウトになる。ただし、違反判明前のアウトは取り消さない。

③ 打撃完了後、次の動作に入った後は、それまでの全てのプレイは有効である。

20.メンバー表記載の6年生の選手は必ず試合に出場させてください。

※大会の特別ルールとなります。罰則は設けませんが、趣旨をご理解いただき、何卒、遵守のほどお願い致します。

21.チームは試合開始の30分前までに、メンバー表(5枚)(決勝は6枚)を大会本部に提出する。

試合開始予定時刻になっても会場に到着しないチームは、原則として棄権とみなす。

※メンバー表には登録選手全員ではなく、登録選手のうち、試合当日ベンチに入る選手のみ記載します。

※メンバー表には記載する6年生の選手の名前を○で目印をつけて提出してください。

22.本大会は特別指名打者(EDH)を採用することが出来る。

・特別指名打者(EDH)に伴う「特別ルール」(10人攻撃)

・守備を行う9人に加えて1人攻撃のみ参加するメンバーの、合わせて10人で攻撃を行う制度

・EDHを採用するチームは、チームのベンチ入りメンバーが10名以上である必要がある。

・EDHは1人までで、攻撃のみの選手。

・EDHの打順は1～10番のどこでもよい。

・EDHの選手に代打、代走を送ることが出来る。

・EDHの選手も途中から守備につく事が出来る。

その時の打順は変わらずに攻撃にも参加できる選手となる。

・EDHの選手が守備についている選手と交代して守備につく場合、守備についていた選手は、
攻撃のみとなるか、控えの選手がEDHとして出場する。但し打順は変わらない。

・試合開始前にEDHを採用するか、採用しないかを申請する。EDHを申請したチームは、
試合終了までEDHを採用しなければならない。尚、試合の途中からEDHの採用は出来ない。

23. 今大会より以下の条件に当てはまる盗塁につきましては、1 試合 6 個までとする。

なお、以下の条件以外において、記録上盗塁と記録されるケースもございますが、「打って得点する」という野球本来の楽しさを選手に経験させたいとの理念から条件を限定し、規定に盛り込みましたこと、ご理解いただけたら幸いです。

・投手がボールを保持した状態以降、投球が捕手に達するまでに走者が次塁に向けてスタートし次塁に達した場合 1 個とする。

なお、投球を捕手が捕球した状態の間に走者が次塁に向けてスタートし次塁に達した場合（ディレードスチール）も 1 個とする。

・投手の投球時に走者が次塁に向けてスタートしその投球を打者が打ち、打者が走者になった場合、ファール等で走者が次塁に達しなかった場合は盗塁の数を加算しない。（盗塁の企図数は加算しない）

・牽制球で挟まれた場合、ボーク発生時は盗塁の数を加算しない。

・要項No.23 にかかわる判定については審判団の裁定とする。

・重盗、三重盗は 1 個の扱いです。

・7 回目の盗塁を企てて次塁へ達した場合、ただちにボールデッドとし、当該の走者はアウトとして、他の走者は投球当時の占有塁に戻す。重盗、三重盗の場合は本塁に近い走者のみをアウトとする。

・盗塁数のカウント管理は、控え審判および大会事務局にて行う。

（自主開催時は控え審判にて管理、自主開催時は控え審判の準備をしてください）

試合要項 23 にかかるケーススタディとなります。

例 1) 走者一塁、スタートをし、打者が打った打球がファールボールとなった場合は走者が次塁に達していないため「盗塁」の数を加算しません。

例 2) 走者一塁、スタートをし、走者が二塁で刺殺された場合「盗塁」の数を加算しません。

例 3) 既に「盗塁」を 6 個して走者一塁、三塁、一塁走者のみがスタートし、次塁に達した場合は一塁走者がアウトとなります。

例 4) 打者が四球で一塁に到達し、到達後すぐ次塁に向けスタートし次塁に達したときは「盗塁」とします。